

【相談援助部門の機能強化】 課題と検討の視点

課題項目	検討の視点(案)	備考(資料)
<p>■対応困難ケースが増える中、相談援助機能をさらに強化するには【児童相談所】</p> <p>□配置について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童福祉司及び児童心理司の人員数が、全国平均と比べ大きく下回る現状 ○児童相談所の専門性を支える人員配置になっているか【事務職24.0% 福祉職73.8% その他2.2%】 <p>□育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童福祉司に求められる能力・資質・専門性とは ○経験年数の少ない児童福祉司が多数を占める状況【係長・チーフを除くと、経験年数3年目までが約6割】 介入型支援のスキルアップをどう図るか ○基幹職員(チーフ)の役割の増大、プレイングマネージャーとしてのスキルアップが急務 <p>□業務スパンについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○性行相談、障害相談から虐待対応までの児童相談所機能の見直し、虐待、非行相談に重点化するには【児童福祉司1人あたりの持ち件数 H23: 約100件】 ○初期対応から家族再統合まで広範にわたる児童福祉司の業務範囲は適正か ○一時保護ケースの増等に伴ない、困難な保護者対応に追われる現状【虐待による一時保護:H18: 578件 H22: 702件】 ○医療機関からの生命の危険がおよぶケースや、医学的な知識が必要とされるケースなど、相当な時間と労力を要するケースの通告等が増える中で、量、質ともに負担の増大 <p>□その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○燃え尽き症候群を防止するにはどのような方策があるかモチベーションアップの方策 ○児童相談所の調査権限の強化するには(例えば条例化) ※一人ひとりへの子供について社会的責任を明確に 	<p>■困難ケース対応を前提とした児童相談所体制強化と人材育成体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童福祉司、児童心理司の適正配置の検討 ○児童福祉司として相談援助業務を行う上で、適切な職種及び専門職採用の検討 <p>○キャリアデザイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ○OJT、Off-JTを効果的に組み合わせた研修体系のあり方の検討 ○基幹職員(チーフ)の役割明確化及びブロック内体制(職種・経験年数)のありかたの検討 <p>○児童相談所機能のスリム化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○分業体制の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・虐待対応専門チーム・家庭支援チーム等 ○困難な保護者対応の強化、警察との連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・虐待対応強化専門員(警察OB)の配置ほか ○医療機関が関わるケースへの対応強化 <ul style="list-style-type: none"> ・医療連携専門員(保健師)の配置ほか <p>○ジョブローテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉司以外の関連職務経験との組み合わせ ○自治体内機関間の情報提供手法等の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・「みんなの力で防ごう 児童虐待」パンフレット ・児童心理司の業務の柱 <p>・児童相談所職員の配置状況</p> <p>・児童福祉司の経験年数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉司研修について ・平成24年度東京都児童相談所研修体系図 ・平成24年度新転入研修前期・中期・後期研修計画 ・平成24年度専門研修計画 ・新任児童福祉司研修受講者の声 ・家庭裁判所調査官と児童福祉司の比較 ・児童福祉司の研修体系イメージ(案) ・研修例示(プロセスレコードとEQ)について <p>・平成23年度児童相談体制の強化(再掲)</p> <p>・都の児童相談所の体制のあり方について</p> <p>・A市・B市児童相談所の相談体制</p> <p>・対応困難ケースの状況(再掲)</p>
<p>■区市町村の体制や対応力の向上を図るためには【子供家庭支援センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ケースの見立てについて児童相談所と乖離はないか ○要保護児童対策地域協議会としての調整力は発揮できているか ○センター長や基幹職員の育成が課題 ○地域子育てサービスの内容が様々 ○支援センター内直営部門と民間委託部門の役割分担が適切に機能しているか 	<p>■児童相談所による効果的な地域支援のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童相談所と子供家庭支援センターの橋渡し役の設置 <ul style="list-style-type: none"> ・チーフと虐待対応コーディネーターなど ○関係機関間の調整力 ○長期、短期派遣研修 <ul style="list-style-type: none"> ・ケースマネジメント向上 ・リスクアセスメントの共有化 ○子育てサービス内容の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・区市町村児童虐待対応力向上支援事業の概要 ・平成23年度東京都が行う子供家庭支援センター職員等に対する研修